

曾田雄志の「木の家」を創る

コンサドレー札幌アドバイザリストスタッフの曾田雄志です。

このコーナーでは、私が赤黒戦士の一員として9年間戦ってきた中で感じた強い危機感から、このチームとクラブがこれから「もっと愛されるクラブになるために」というようなことに取り組むべきか？について考察し、様々なジャンルの専門家の方からご意見を頂きます。

第3回
曾田雄志 × 吉村直己
「再生につづいて」

曾田 第3回は、債務整理に陥り株主の立場に負担を強い過去を持つFCに、とても参考になると思う。「再生」について考えてみたいと思います。今回のゲストは、大阪に本社を構える住宅メーカー「創建」が引き継いで再建した「株式会社木の城たいせつ」社長室長の吉村直己さんです。北海道で事業停止した会社を引き継ぎにまつた経緯を教えてくださいませんか？

吉村 ある紹介から「木の城たいせつ」を知りながら古くからの親しい友人が、工場がある栗山町出身で実家も「木の城」だったんです。出てみると、素晴らしい技術にまつ驚きました。

曾田 偶発的な出会いから北海道にいらしたわけですが、先行投資の覚悟も大きいと感じるのですが、そのポイントについてお話しいただけますか？

吉村 神代仲間を造った日本古来の宮大工の技術を機械化した工場があり、将来に残そうとしていること、独自の技術で道内に建てた1万9000棟のメンテナンスが必要でした。リーマンショック後で経費削減のため、再生に投資する理由はない、破綻した状況が悪いせいでは必要とされていること、弊社の社長が判断したからです。社長は「何か難易度を持ちながらもダメな所が多いために破綻した会社の方が再生しやすい」として「会社という利益を重視するのではなく、その技術やサバイビリティというお客様が必要とする商品を提供し、信用という利益を獲得するかが重要」と話しています。

曾田 素晴らしいお考えですね。利益はあくまで後から付いてくるものというところが、「再生」していく上でこのように取り組まれましたか？

吉村 まず看板が一番の魅力である「宮大工の曾田」に絞りました。原点に帰り、最大の特色である構造、工法を生かしながら、現在の市場が求める価格帯や商品構成を考えました。またお客様のサバイビリティ改善のため、社内の意思疎通を良くし、チームワークの向上に努めました。「木の城たいせつ」への思いの強い社員が元々集まっていたので、再スタートしてから経験の無い部署に就いた多くの方も、個人の特色を発揮して貢献してくれました。別々ではお客様と接点の無かった元経理の方が、実は地域に詳しく話し好きで、今は営業で活躍しています。

曾田 能力やキャリアも大事ですが、そもそも会社を愛しているか？ということが本当に大切なのではないですか？

吉村 新しい試みを既存の組織に馴染ませるのに気を付けたことは？

吉村 会社（の気持）のない人と仕事をしてもいい。良い商品やサービスを提供でき、お客様にご迷惑をかけ、結果として会社の経営が成り立たなくなるとは思いません。仕事が本当に好きだと話しているとその周りの人とも話しが広がり、新しいアイデアが出て来ます。コミュニケーションで気がついたら、個別別ではなく、プラプラしながら話しかけてみる。その人の性格や強みを見つづけることか。

曾田 なるほど、規律で縛るのではなく社員の特徴の再確認と人間関係を大切にすることが一つですね。最後になります。「再生」から先の「進化」について意見を聞かせていただけますか？

吉村 僕は「再生」と「進化」は一緒だと考えています。一度破綻した会社は進化しただけでは再生できません。そもそも業績を維持するだけでも、同じで居たらできません。進化が止まったら潰れるのだと思

います。ですから進化である再生を続けていきたいのです。「木の城たいせつ」は「曾田組みを提供する素材屋」でいいのですね。その上好きな素材を入れて、好きなデザインの商品を建てていくという北海道の建築家は北海道の建築会社と工務店だけでかなり厉害です。そしてその最高の技術を開業に先ればさらには厉害です。北海道の潜在能力をもっと出さなくてはならないと思います。

曾田 「素材屋いんだだけ」と言われることの多い北海道ですが、関東で地連な取り組みがその輪を広げ、北海道を強くするのです。北海道の企業でありチームとして、私たちがその一端を担えるよう、見直し、突き詰めたいと考えてはなりません。本日はありがとうございました。

吉村 ありがとうございます。



「再生」と「進化」について熱い思いを語ってくれた吉村さん(左)

④ (次回登場場外)

第4回は「現場」で頂くのはセレクトショップ「arc」を運営するミサギインテリナショナル代表の山内公史さんです。「愛推」についてお話しして頂く予定です。

吉村 直己
1982年3月24日、大阪府生まれ、29歳。
清風高校からHawaii Pacific Universityへ進学。帰国後、慶応大学ビジネススクールでMBAを取得。
職歴：株式会社ウェルネットインターナショナル、Thought Equity Motion 日本支社、株式会社創建 東京支店、2010年5月より、株式会社木の城たいせつ取締役社長室長。
趣味：映画鑑賞、スポーツ全般

曾田 雄志
1978年7月5日、札幌生まれ、33歳。
札幌南高校から筑波大学へ。
2001年 コンサドレー札幌入団
2010年 引退 Jリーグ出場254試合、21得点
2010年 コンサドレー札幌アドバイザリストスタッフ
2011年 EN project Japan実行委員長

(ソロハウス) (35坪/4LDK~)

Solo Haus® T2β Family Type

完全復活した“木の城たいせつ”が創る“Solo Haus”ファミリータイプ。debut!

9月28日(水) 受付開始

税込 1,350 万円

限定1棟を1組に抽選にて特別価格で提供いたします。

※札幌圏内にて土地・建物契約可。※外局給排水・杭打工事・暖房工事などは含まれません。